



Data

監督: トム・リン
 脚本: リチャード・スミス
 原作: タン・トゥアンエン『夕霧花園』(彩流社刊)
 出演: リー・シンジエ/阿部寛/シルヴィア・チャン/ジョン・ハナー/ジュリアン・サンズ/デヴィッド・オークス/タン・ケン・ファ/セレーヌ・リム

👁️👁️ みどころ

私は“マレーの虎”も“山下財宝”も“怪傑ハリマオ”もよく知っているが、“金のユリ”とは？なぜマレーシアに日本皇室庭師がいるの？彼の「夕霧花園」造りは、日本のスパイとしてのカモフラージュ？

「真珠湾攻撃」より1時間20分早く始まった「マレー作戦」は大成功だが、以降のマラヤ（マレーシア）での占領政策は？収容所は？

庭師とヒロインとの出会いが異例なら、師弟関係も異例。さらにその別れも、30年後の再調査も異例。その物語は如何に？3つの時間軸を通じて描かれる、さまざまな“謎”をしっかりと解明したい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ マレーシアに日本人庭師が！ヒロインとの出会いは？ ■□■

本作は2020年の大阪アジア映画祭で上映され、上映後には客席から拍手が巻き起こったというマレーシア映画だが、『夕霧花園』って一体何？また、阿部寛が元日本皇室庭師だったという中村有朋役で登場し、全編英語でセリフを操っているそうだが、“あの時代”の“あの地”に、そんな男がホントにいたの？

映画は便利な芸術だから、瞬時に時代をずらすことができる。『タイタニック』（97年）では、導入部での老婆へのインタビューから突然スクリーンが1912年4月のタイタニック号の出航時に遡っていたが、それは本作でも同じだ。本作導入部は1980年。連邦裁判所判事を目指している女性裁判官ユンリン（張艾嘉（シルヴィア・チャン））が、旧日本軍スパイとして糾弾されている日本皇室庭師・中村の潔白を証明する証拠を探すため、かつて中村の下で「夕霧花園」作りの見習いをしていたカメラマンハイランドを訪れるところから始まる。そんな行動は、必然的にマラヤ（旧マレーシア）が1941年12月8日の日本軍の侵攻によって占領されていた悲惨な時代を思い起こすことになるが、なぜユ

ンリンは今そこまでして中村を救おうとしているの？

そう思っていると、若き日のユンリン（李心潔（リー・シンジエ））がキャメロンハイランドで「夕霧花園」を作っている中村の元を訪れるシークエンスが登場する。この訪問は、1945年8月15日に戦争が終了した後、戦犯法廷のアシスタントとして働いていたユンリンが、収容所で亡くなった妹ユンホン（セレーヌ・リム）の夢である日本庭園を中村に作ってもらうためらしい。中村はその依頼を断ったものの、現在作っている「夕霧花園」で自分の見習いをしながら庭作りを学ぶことを提案したため、ユンリンはそれに従うことに。

■□■1941年12月8日のマラヤは？“マレーの虎”は？■□■

1941年12月8日は日本軍が真珠湾を奇襲攻撃した日として有名だが、日本軍の作戦はハワイ方面だけではなく、南方作戦もあった。海軍がマレー沖でイギリスのプリンス・オブ・ウェールズ等の戦艦を沈没させたことは有名だが、意外に知られていないのは、陸軍の「南方作戦」だ。

その第1弾である「マレー作戦（E作戦）」は、1941年12月8日午前1時30分（日本時間）に開始されたため、「真珠湾攻撃」より約1時間20分早かった。それを指揮したのは、第25軍司令官の山下奉文大将だ。第25軍は各地で快進撃を続け、たちまちイギリス領マラヤを占領。さらに、「マレー作戦」に続く1942年2月8日からの「シンガポール作戦」も2月15日には終結させた。そんな、開戦当時の山下奉文大将は日本男児のあこがれの的だったが、彼は1936年に起きた「二・二六事件」に関与する“皇道”派だったため、後に陸軍大臣や総理大臣になった統制派の東条英機らとの折り合いが悪かったらしい。

ちなみに、私は小学生時代にTVドラマ『快傑ハリマオ』に夢になっていたが、このハリマオも“マレーの虎”と評された山下奉文大将と共に有名だから、本作を契機にお勉強を。また、阪本順治監督の『人類資金』（13年）（『シネマ32』209頁）に登場する山下財宝が本作にも登場する（？）ので、それもじっくり勉強したい。

■□■原作は？日本軍の占領政策は？収容所の実態は？■□■

台湾出身のシルヴィア・チャンは1953年生まれのパレタラン女優だが、近時『あなたを、想う。（念念）』（15年）（『シネマ46』216頁）、『妻の愛、娘の時（相愛相親）』（17年）（『シネマ44』52頁）等での精力的な活動が続いている。『タイタニック』では老婆になったローズと若き日のピチピチしたローズは似ても似つかぬ姿だったが、本作冒頭に登場する1980年代のユンリンと、1940～50年代のユンリンはそれなりに似ている必要がある。そこで、若き日のユンリン役に抜擢されたのが、1976年にマレーシアで生まれた女優リー・シンジエだが、両者は非常によく似ている（？）のでビックリ！

本作のユンリンは、マレーシア華僑としてイギリスの植民地だったマラヤのミッション

スクールに妹のユンホンと共に通っていたという設定。そんなユンリンだったが、日本軍がマラヤを占領し、現地民を収容所に収容させてしまうと……。収容所での肉体労働は過酷だったうえ、食糧事情も悪かったから次々と死者が出ていたが、日本の敗戦が決まると日本軍は証拠隠滅のため現地人捕虜を収容所ごと爆破して焼き払ったため、ユンホンはその犠牲に。何とかユンリンだけは逃げ延びることができたそうだが……。

本作はブッカー賞にノミネートされた、マレーシアの作家タン・トゥアンエンの『夕霧花園』を原作にしているが、そんなストーリーはホントにホント？『戦場のメリークリスマス』（83年）は英国人軍人の捕虜収容所を舞台にした映画で、捕虜の虐待をテーマにした名作だった。しかし、「マレー作戦」によってマラヤを占領した日本軍は、本作が描くようにユンリンやユンホンのようなミッションスクールの女子学生まで収容所に入れ、過酷な肉体労働に従事させていたの？私はそれには大きな疑問があるが……。

■□■ユンリンはなぜ日本庭園にこだわりを？これは師弟愛？■□■

本作の中村は“皇室庭師”だが、それって一体何？そんな仕事（役職？）がホントにあったの？ユンリンやユンホンらに酷いことをしていた収容所の実態と共に、私は原作や本作の時代考証にいささか疑問がある。それを横においても、本作に見る中村の日本庭園作りの哲学はメチャ難しい。中村の下で長年働いている職人たちは、「土を掘り起こし、石を入れ替えるのが中村流の仕事のやり方だ」と割り切っていたが、弟子になったとはいえ、女の細腕で職人たちと共に毎日土や石と格闘させられるユンリンがそんなやり方に疑問を持ったのは当然だ。マレーシア華僑のユンリンが持つそんな合理的な質問に対する中村の答えもメチャ難しいものだったし、『夕霧花園』と題された本作で「夕霧花園」の素晴らしさを実感することはできないから、結局その点は何となくモヤモヤ……。もっとも、本作のカメラワークや光と影のコントラストに満ちた撮影は素晴らしいから、それはしっかり楽しみたい。中村がユンリンに教えようとしたのは日本庭園の神髄だが、その理解のためには千羽鶴の折り方や浮世絵の心なども理解する必要があるらしい。藤純子が主演して大ヒットした東映のヤクザ映画『緋牡丹博徒』シリーズ（68～72年）は藤純子演じる“緋牡丹のお竜”の背中に彫られた緋牡丹が大きなポイントだったが、本作の「夕霧花園」の中にはどんな花が？

本作であっと驚かされるのは、当初日本庭園作りのための「師匠と弟子の関係」から始まった2人の中が、少しずつ微妙に「恋愛関係」に変わっていくこと。その延長線として、中村がユンリンの背中一面に彫り物を施すという設定には唾然とさせられたが、ここまでに至れば2人の深い男女関係は明らかなだ。しかし、ユンリンは占領されたマラヤの地で収容所に収容され、妹の命まで失った女性。それに対して、中村は日本人であるうえ軍部とも接点を持ち、山下財宝とも接点が……。いやいや、自分の愛した男がそんな日本のスパイだったはずはない。

1980年代の今、ユンリンはそんな思いで1940～50年代の中村の真の姿を調べ

るためにキャメロンハイランドに赴いていた。1940年代、ユンリンを中村に紹介したのはキャメロンハイランドで茶畑を経営していた心優しいイギリス人紳士マグナス・ゲメル（ジョン・ハナー）。妻のエミリー（タン・ケン・ファ）は優しくユンリンをもてなしてくれたし、息子のフレドリック（デヴィッド・オークス）はユンリンに一目ぼれしていたらしい。そして今、1980年代のキャメロンハイランドで証拠集めをするユンリンを手伝うのは、60歳になっているフレドリックだ。フレドリック（ジュリアン・サンズ）は中村が住んでいた建物や書斎をそのまま残していたが、それは一体なぜ？そして、ユンリンはその調査の中からどんな証拠を発見することができるの？

■□■ “山下財宝” とは？ “金のユリ” とは？中村はスパイ？ ■□■

昨今の香港やミャンマーでの大騒動は、連日新聞やニュースで報道されているからよく知っているが、あなたはマレーシアで今起きている前首相の辞任に伴う次期首相選定の混乱を知っている？また、それ以前に、マレーシアはどこにある国で、その領土や政治体制がどうなっているか等を知っている？寡聞にして私はそれをほとんど知らなかったため、本作の鑑賞を契機に、詳しく学ぶことに。そこで驚かされたのは、イギリスや日本の侵略と戦ってきたマラヤ共産党の存在と役割だ。

他方、『人類資金』によれば、日本国民の血と涙の結晶である総量600トンにも及ぶ金塊＝日本軍の秘密資金は、軍の命令によって回収しておきながらそれを軍に戻さず、あえて東京湾の海の中へ沈めていた。しかし、東南アジアには、日本軍の莫大な埋蔵金が今も現地に残っているという噂があるらしい。そして、これは山下奉文大将の名にちなんで「山下財宝」と呼ばれている。さらに、アメリカのノンフィクション作家スターリング・シーグレーヴが『ヤマト王朝－天皇家の隠れた歴史』（99年）の中で埋蔵金は皇室の資産で、「金のユリ」の暗号名で呼ばれると書いたことで、埋蔵金の噂には新たな尾ひれがつけられたらしい。

本作のパンフレットには、山本博之（京都大学東南アジア地域研究研究所准教授）の『金のユリ』によって引き裂かれた想いが35年の時を経て届く」があり、そこでは、そんな“金のユリ”について詳しく解説されている。その前半での日本軍の暴虐ぶりの記述には少し異論があるが、“金のユリ”を巡る本稿は必読だ。もっとも、これをいくら読んでも、本作の中村が旧日本軍のスパイだったのか否か、さらには、“金のユリ”との関りがあったのか否かについてはサッパリわからないので、それは本作でじっくりと！

■□■ 収容所の名前は？日本庭園は「借景」が命！？ ■□■

2021年8月21日、中国東北部の遼寧省大連市に中国で最大級となる、日本の京都をテーマにした「盛唐・小京都」がオープンした。その規模は50万㎡、総工費は60億元（約1000億円）。寿司に着物に温泉風呂だが、さて・・・？不動産開発の大連樹源科技集団はこの大プロジェクトで京都の街並みの再現を目指したが、ユンリンの妹・ユンホンが過去に旅行した京都で見た日本庭園に魅せられたのは一体なぜ？

本作でそれが全然説明されないのは不親切(?)だが、ユンホンが収容所の屈辱の中でも何とか正常な精神を保つことができたのは、自分自身の夢である日本庭園を思い描くことによってだった。そして、ユンリンはそんな妹の思いを知っているからこそ、妹のために夢の日本庭園を作ってもらうことを中村に依頼したわけだ。そんな縁によって、中村とユンリンは師弟関係を大きく超えるただならぬ仲(?)になっていたが、日本庭園の作り方は難しい。土を掘り返し、石の位置の変更を繰り返すばかりの中村は、念仏のように「借景」を唱えていたが、その深い哲学はユンリンにはサッパリ。そんな混迷の中で日本軍の敗色が強まっていったから、中村の安全は?皇室庭師としての身分保障は?

本作は今ドキの分かりやすい日本のTVドラマのように時系列に沿ってストーリーを追っていくものではないから、コトの顛末を正確に理解するのは難しい。しかし、冒頭の1980年代のシークエンスから想像できるのは、ある日、中村がユンリンの前から消え去ってしまったということだが、それは一体なぜ?それを読み解くキーワードが“金のユリ”だから、その言葉がどこでどう使われていくのかに注目したい。ちなみに、爆破されてしまったユンリンやユンホンが入っていた収容所は、一体どこにあったの?ひょっとして、“山下財宝”はその近くに?そして、中村がさかんに繰り返していた「借景」は、彼が丹精を込めて作った「夕霧花園」の中でどのように生かされているの?そんなこんな謎を、ユンリンは1980年代の今、キャメロンハイランドの調査で解明することができるのだろうか?そんな、さまざまな謎解きも、美しいカメラワークの中で表現されるので、そんなミステリーと美しさはあなた自身の目でしっかりと!

2021(令和3)年8月25日記